

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 213人

② 数学 213人

③ 英語 213人

5 留意事項

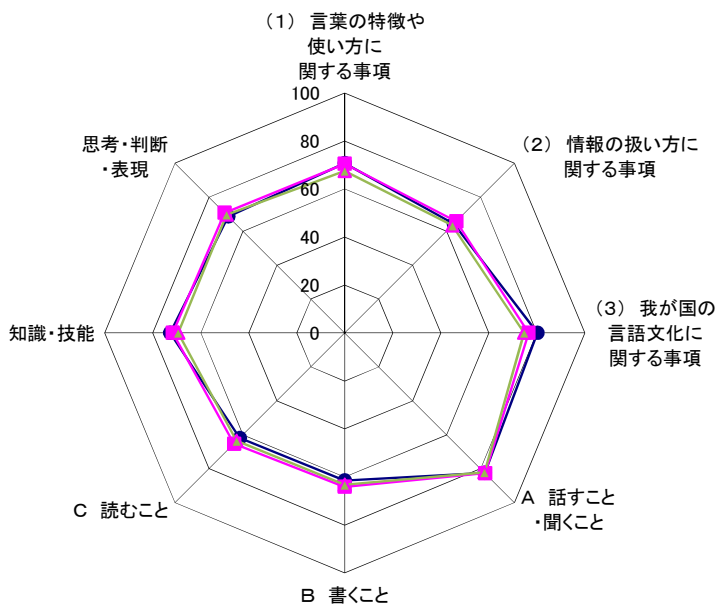
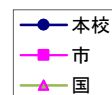
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、英語の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	70.7	70.5	67.5
	(2) 情報の扱い方に関する事項	64.3	65.7	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	80.3	76.6	74.7
	A 話すこと・聞くこと	82.5	82.6	82.2
	B 書くこと	61.5	64.1	63.2
	C 読むこと	61.9	65.3	63.7
観点	知識・技能	72.8	71.7	69.4
	思考・判断・表現	68.6	70.8	69.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

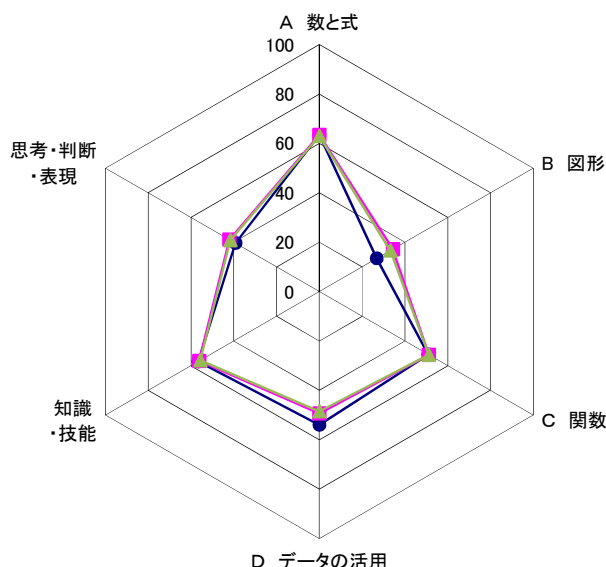
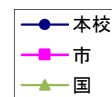
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	○県・全国の平均正答率を上回っている。事象や行為、心情を表す語句について理解しているかを問う問題では、9割以上の正答率となっている。 ●文脈に即して漢字を書く問題については、県・全国の平均正答率を上回っているが、正答率は5割に満たないため課題が見られる。	・今後も引き続き漢字テストを実施していく。また、テストだけでなく、日頃から漢字を用いて文章を書くよう指導していく。その際、適宜正しい漢字を用いられているか確認する。 ・文脈に即して漢字を選び、書くことができるよう、国語辞典を用いて語彙を豊かにしたり、必要に応じて漢字の持つ意味を解説したりする。
(2) 情報の扱い方に関する事項	○意見と根拠など情報と情報との関係について理解できており、市・国の平均正答率よりも3ポイントほど上回っている。 ●具体と抽象など情報と情報との関係については、県・国の平均正答率よりも1ポイント以上下回っている。	・資料から適切な情報を読み取る力は昨年度から課題となっているため、文章や資料を論理的に読む力を養うために、どこに何が書かれているのか、また関係はどうなっているのかを引き続き確認するようになる。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○県・全国の平均正答率を約5ポイントほど上回っている。特に歴史的仮名遣いは9割以上の正答率となっており、授業における音読や暗唱テストの成果が出ている。 ●文章を読み理解したことを自分と結びつけ、自分の考えを高めたり深めたりすることについて、県・全国の平均を上回っているが、平均正答率は7割となっている。	・音読や暗唱テストについては今後も継続をすることで、歴史的仮名遣いを正しく読める力を養う。 ・読み取ったことをもとに自分自身の考えを書く問題については、自分と結び付けて、自分の意見を書けるような活動を増やし、文章の作成に慣れさせていく。
A 話すこと・聞くこと	○目的や場面に応じて質問する内容を検討する問題では、正答率が9割を超えている。 ●聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることに関しては、県・全国の平均を下回っているため課題となっている。記述式の問題のためか、無回答率も約17%と県・全国と比べても高くなっている。	・授業の中で、自分の考えを持たせてから話し合う活動をする中で、自分の考えを表現する機会を確保する。また、話し合うことで、適切な考え方をし、目的に沿った意見となっているか見直しをさせる。
B 書くこと	●県・全国の平均正答率を下回っている。また、記述式の問題に関しては、無回答率は県・全国の平均を上回っている。 ●叙述の仕方などを確かめ、文章を整える問題は選択式であったが、正答率が5割程度だった。	・授業の中で発問に対し、ノートに自分の意見を書く活動を増やし、書くことへの抵抗を減らす。また、文を書く上での決まりや、文末の処理等は全体で確認するようになる。 ・実際に書いた文章を生徒同士で読み合い、良いところや、改善できるところを互いに指摘する機会をつくる。
C 読むこと	○文章の要旨を的確に把握できるかという問に対し、正答率が県・全国を1.2ポイントほど上回っている。 ●記述式の問題に関して、無回答率が県・全国の平均より約5%も高くなっている。また、正答率は4割程度であり、県・全国の平均を5%ほど低くなっている。問題そのものの読み取りに課題があるのではないかと考えられる。	・読む力を養うために、積極的に文章に触れる機会を作る。また、文章の内容が理解できているのか場面ごとに確認したり問題に関しては問われていることは何かを確認したりする。 ・選択する問題はおおむねできているので、問に対して抜粋するのではなく、自分の言葉で表現できるように指導していく。

宇都宮市立宮の原中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	63.4	63.4	63.0
	B 図形	26.8	34.3	33.2
	C 関数	50.9	51.2	51.2
	D データの活用	54.0	49.4	48.5
観点	知識・技能	56.6	56.2	55.7
	思考・判断・表現	39.3	42.1	41.6
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	<p>○知識・理解の短答式の問題に関して、県や全国の正答率を2～3ポイント近く上回っている。無回答率が県や全国よりも大変低く、とくに自然数の意味を理解しているかどうかの問題では、無回答率が0.0%だった。</p> <p>●思考・判断の記述式の問題に関して、正答率は県や全国とほとんど差がない。しかし成り立つ事柄を見出し説明する問題に関して、無回答率が県や全国に比べて高かった。</p>	<p>・正答率が90%を超えている問題もあり、引き続き基礎基本の定着を図るために、指導法の工夫と反復学習を継続する。</p> <p>・説明する問題で無回答率を下げるために、授業で一人一人の生徒が課題解決の当事者として向き合えるような工夫や、自ら積極的に問題を読んで理解しようとする態度を育成できるような工夫を行っていききたい。</p>
B 図形	<p>○図形の事柄が成り立つことを構想に基づいて証明する問題に関して、無回答率が県や全国と比べて6ポイント近く低かった。</p> <p>●知識・技能、思考・判断・表現ともに、正答率が県や全国よりも低い。</p>	<p>・自ら考えて積極的に証明しようという態度をもつ生徒が多くいるため、指導法の工夫を継続して大切にしていきたい。</p> <p>・空間概念の知識・技能を身に付けるために、ICTをさらに工夫して取り入れて、空間図形がイメージしやすいようにする。</p> <p>・証明を書く際に、根拠や表現が不十分な場合が多いため、知識・技能の定着を目指し、授業改善を行う。自主学習でも反復学習を促していきたい。</p>
C 関数	<p>○反比例の意味理解の問題では、正答率が県や全国よりも5ポイント以上高く、無回答率は0.0%だった。事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題に関しても、県や全国よりも正答率・無回答率ともに良好だった。</p> <p>●知識・技能の問題である、必要な情報を適切に読みとったり、グラフを事象に即して解釈する問題に関しては無回答率が低いにも関わらず、県や全国に比べて正答率が低かった。</p>	<p>・思考・判断・表現の記述式の問題が、県や国に比べて正答率・無回答率ともに良好であることから、関数領域の問題に関して積極的に問題を理解し、説明しようとする生徒が多くいるため、指導法の工夫を継続して大切にしていきたい。</p> <p>・文章と設定をくみ取る理解力を高めたい。授業で使用する題材を厳選していきたい。</p>
D データの活用	<p>○全体を通して、県や全国よりも正答率が6ポイント近く上回っている。知識・技能の問題に関しては、県や全国よりも正答率が10ポイント近く上回っていて、無回答率も大きく下回っている。</p> <p>●思考・判断・表現の問題に関しては、県や全国よりも正答率が低く、無回答率も高かった。</p>	<p>・知識・技能に関しては結果から昨年度末の既習事項の意味を良く理解している生徒が多くみられるため、定期的振り返る機会を設けてさらなる定着をはかりたい。</p> <p>・日常生活や社会の事象を題材とした問題などを授業で取り上げ、統計的に問題解決ができるようにしていきたい。</p> <p>・説明する問題で無回答率を下げるために、授業で一人一人の生徒が課題解決の当事者として向き合えるような工夫や、多様な考えの比較検討を多角的にできるような指導法の工夫を行っていききたい。</p>

宇都宮市立宮の原中学校第3学年【英語】分類・区分別正答率

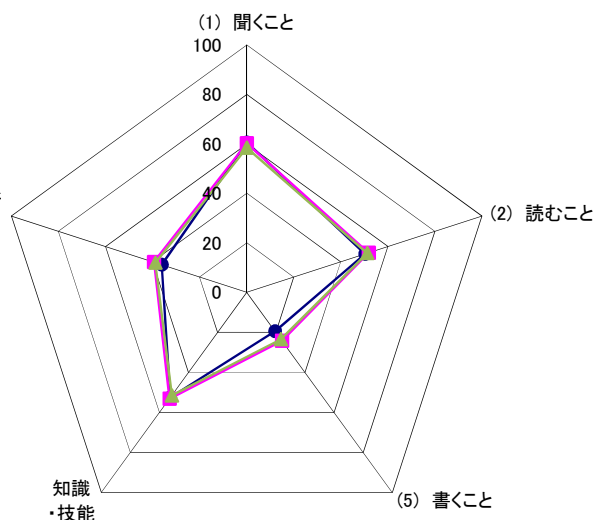
★本年度の国、市と本校の状況

【英語】



分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	(1) 聞くこと	60.6	60.2	58.4
	(2) 読むこと	50.3	51.8	51.2
	(3) 話すこと[やり取り]			
	(4) 話すこと[発表]			
	(5) 書くこと	19.4	24.2	23.4
観点	知識・技能	52.6	53.1	51.5
	思考・判断・表現	36.1	39.4	38.8
	主体的に学習に取り組む態度			

思考・判断・表現



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 聞くこと	<p>○平均正答率は、国より2.2ポイント、及び本市より0.4ポイント高い。</p> <p>○「情報を正確に聞き取る」「短い説明の要点を捉える」ことに関して、正答率が高い。英語を用いての指導、及び補助教材を活用した「聞き取り」の練習を、継続的に行っている成果が見られる。</p> <p>●「目的に応じて聞く」「状況などから判断して聞き取る」ことに関して、課題が見られる。</p>	<p>○今後も、英語を用いた指導を充実させていくとともに、「聞き取り」の練習を継続し、「聞く」機会を豊富に設ける。</p> <p>・ALTとのTeamTeachingの充実を図り、即興力を伸ばすことができるよう工夫する。</p> <p>・話や会話の内容の確認に加え、聞き取った内容を生かした「考え」を持つことができるよう、学習内容及び指導方法を工夫する。</p>
(2) 読むこと	<p>●平均正答率は、国より0.9ポイント、及び本市より1.5ポイント低い。</p> <p>○「情報を正確に読み取る」「事実と考えを区別して読む」「短い文章の要点を捉える」ことに関して、正答率が高い。「読んで考える」学習の成果が見られる。</p> <p>●「状況などから判断して読み取る」「文と文との関係を正確に読み取る」「短い文章の概要を捉える」ことに関して、課題が見られる。</p>	<p>・教科書を通して触れる英文は、比較的長く複雑である。それらを、時間をかけて丁寧に読んでいく学習を行っていることから、「読むこと」に関する習熟度が、徐々に高まってきている。今後も、同様の活動を継続していく。</p> <p>・読んで得た情報を、自分の考えに生かす練習を充実させることが求められる。既存の問題に加え、内容に関する自分の考えを発信できるような発問を、指導者が付加するなどの工夫をする。</p>
(3) 書くこと	<p>●平均正答率は、国より4.0ポイント、及び本市より4.8ポイント低い。</p> <p>○「依頼する表現を正確に書く」ことについては、ほぼ平均的な正答率である。</p> <p>●「読んだことについて、考えとその理由を書く」「未来表現の肯定文を正確に書く」「疑問詞を用いた過去形の疑問文を正確に書く」「事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く」ことに関して、課題が見られる。</p>	<p>・「書くこと」の習熟度に関して、全体的に大きな課題を抱えている。「書く」ためには、発信する意欲と同時に、発信する内容を持たせる指導を工夫しなければならない。</p> <p>・「書く」ための言語材料や基本文の習得は、比較的容易であるが、自分の情報を載せるための語彙が十分でない場合が多い。ICT機器を活用し、語彙を広げることができるよう、指導を充実させる。</p>

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、良いところがあると思いますか」の質問に、肯定的な回答した生徒の割合は51.2%で、県平均より11%全国平均より14%上回っている。今後も、自己を肯定的に捉え、活力ある行動・考え方が深まっていくように指導・支援していきたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に、99.5%の生徒が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答となった。県平均より2.9%全国平均より4.0%上回っている。今後もいじめ根絶に向けて学校生活全般で指導を行い、家庭への周知を図り、100%を目指していきたい。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に、肯定的な回答をした生徒の割合は86.5%、県平均より4.0%、全国平均より4.7%上回っている。今後も教職員一丸となって充実した学校生活を送れるよう、良い学校づくりに取り組んでいきたい。また、「当てはまらない」と回答している4.7%の生徒に対する支援を行っていきたい。

○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の質問に、肯定的な回答をした生徒の割合は86.5%となった。これは県平均より6.0%、全国平均より8.9%上回っている。これは授業や道徳で取り入れている「学びあい」や「教えあい」活動等を通して、いろいろな意見に耳を傾けながら自分との違いや、相手の考え方を尊重する活動を取り入れている結果だと思われる。今後も様々な場面で友人の考え方を尊重しつつ、自分の意見を明確にしていく活動を継続していきたい。

○「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問で「当てはまる」と回答した生徒は87.9%で県平均より5.3%、全国平均より8.2%上回っている。少しずつ学校行事や部活動等を仲間と協力団結して活動に取り組んだことや上記の「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の質問の肯定的割合が多いように、日々の授業の中で自分と違う意見に触れ、自分の考えを深めたり、広げたりしていることが大きいのではないかと考える。今後も、学校生活全般で自分の考えを深めたり、広げたりすることができるようにしていきたい。

●「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」役立つと答えた生徒の割合は、61.4%で、県平均より1.5%、全国平均より2.7%上回っているが、「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、コンピュータ、タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」の質問に「全く使っていない」と回答した生徒の割合は49.8%で県平均より13.8%、全国平均より15.5%上回っている。授業中の調べ学習やまとめ等で使用する機会は多くなっているが、家に毎日持ち帰ってはいるものの、勉強で活用している生徒は少く、今後ICTの活用の啓発活動を継続していきたい。

●「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問について「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は31.6%で、県平均の38.6%、全国平均の38.0%を下回っている。地域と結びつきながら、身近な地域の行事に参加している意識が低い結果が読み取れる。コロナ禍の厳しい感染症対策は緩和されているので、地域協議会や地域学校園及び地元自治会の協力を得て、生徒と地域が関わりあえる活動があれば、発信していく。

宇都宮市立宮の原中学校 (第3学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> 授業のねらいの明確化 学業指導の充実 家庭学習の習慣化 	<ul style="list-style-type: none"> ねらいの提示と振り返りを行う。 5分前着席や態度の指導を行う。 課題の提出を徹底させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ねらいの提示と振り返りはおおむね徹底できている。 5分前着席はおおむね徹底できている。 家庭学習は毎日自主学習ノートを提出させることでおおむね徹底されている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> おおむね全国平均を上回っているが、ICTの活用に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 1人1台端末を活用した授業の実践を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1人1台端末を活用した授業と家庭学習での積極的な活用